

あしよろ・ハードサポート通信

生乳の生産抑制に加え、飼料や資材の価格も上昇見込みと、酪農業界の情勢は厳しさを増す一方となっています。今年の1月号でも触れましたが、このような時こそ基本的なことを毎日きちんと積み重ねていくことが大切です。今回はバルク体細胞数と乳質乳価についての話題です。

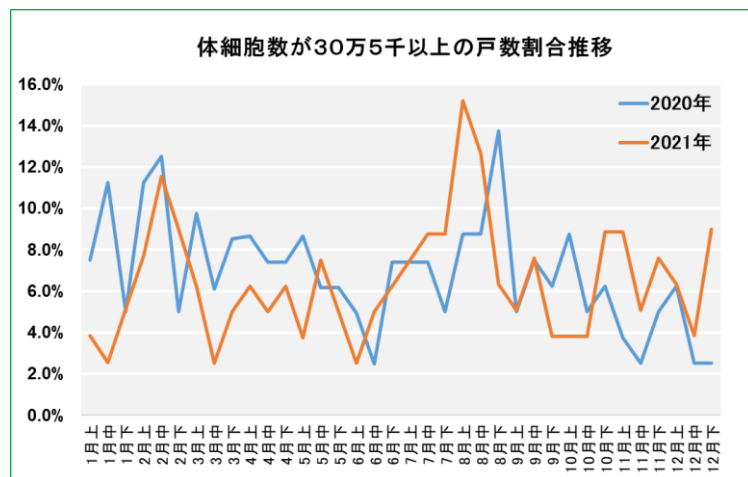
◆ バルク体細胞数が増える原因は

乳牛の「職業病」とも言える乳房炎ですが、牛群に乳房炎の牛が増えるほど、バルク体細胞数は上昇します。乳房炎への対策は色々ありますが、バルク体細胞数の上昇は乳房炎発生時の対応や治療への判断など、農場ごとに異なるバルク体細胞数への意識も大きく関係していると考えられます。



◆ 足寄町内でのバルク体細胞数上昇時期

右のグラフは2020年と2021年の足寄町内における、旬ごとのバルク体細胞数が30万5千以上の戸数割合の推移を示しています。この2年間では同じような割合の推移をしており、暑熱時期に最も高くなる傾向であることがわかります。また厳寒期を過ぎ



たあたりの2月頃にも割合が高くなっています。この推移はあくまで「出荷している」生乳の体細胞数なので、乳房炎発生頻度と必ずしも一致するわけではありません。バルク体細胞数が高くなる原因は乳房炎が多発している可能性も考えられますが、体細胞数の高い牛を見逃していることも考えられます。バルク体細胞数が高めに推移しているときは、牛ごとの体細胞数の確認を毎月行い、集荷ごとのバルク体細胞数も毎回チェックしつつ、高体細胞数の「犯人」を常に捜しましょう。

◆ 積み重ねると大きい乳質乳価のインパクト

右上の図のように、出荷した生乳の旬ごとのバルク体細胞数に応じて、毎月の乳代は変動します。ランク1の場合とランク3の場合では、kgあたりの乳価に4円の差があります。これは大きな差であり、1年間積み重ねると酪農場のメイン収入である乳代に多大な影響が出てきます。右下の図では年間出荷乳量が500トンの場合に、年間通じてランク1、ランク2、ランク3だったときを仮定した乳質乳代の差額を示しています。ランク1とランク3では差額が実に200万円となっています。今年は生産抑制で出荷乳量が頭打ちとなるため、少しでも収入を確保するためにもこの「乳質ボーナス」は見過ごせないですね。

バルク体細胞数による乳代変動

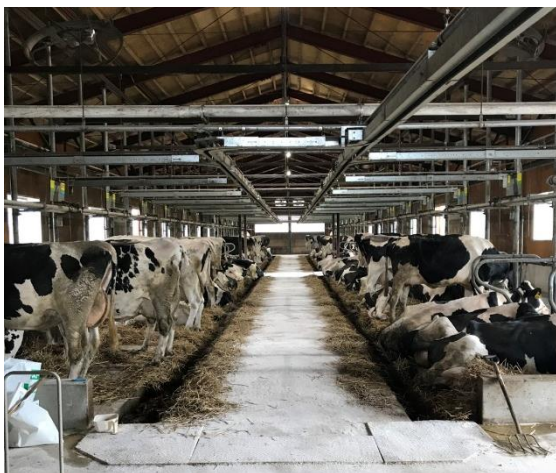
区 分	ランク1	ランク2	ランク3
体細胞数	当月内の3旬 すべてで30万 4千以下	当月内の1旬 または2旬のみ 30万4千以下	当月内の3旬 すべてで30万 5千以上
乳質乳価	+2円	+1円	▲2円

年間出荷乳量500トンでの乳代差額

区 分	年間の乳代差
ランク1	¥1,000,000
ランク2	¥500,000
ランク3	¥-1,000,000

◆ 目指せ町内全軒で30万4千以下クリア

バルク体細胞数の上昇は上記のように乳代にも直接影響しますが、乳房炎牛が多いことによる悪影響はそれ以外にも及びます。牛群で乳房炎の発生が多いと治療による出荷乳量ロスと労力増、治療費の増大、繁殖成績悪化、淘汰率の上昇など様々な悪影響が考えられます。乳房炎発生の原因は飼養環境、搾乳手技、搾乳機器、飼料給与内容など多くあり、発生をゼロにすることは難しいことです。バルク体細胞数を低く保つためには、乳房炎の発生を1頭でも少なくするように飼養管理を行い、牛群で突発的に乳房炎が発生したとしてもバルク体細胞数が30万4千以下に抑えられるような状態を保つことが理想的となります。



(市川雷太)

<お知らせ>

2015年4月から「あしよる・ハードサポート通信」を毎月発信させていただきましたが、本号を持ちまして最後とさせていただきます。今まで発信した情報が皆さまの毎日の営農に少しでもお役に立っているのであれば幸いです。毎月目を通していただいた皆さまに感謝いたします。ありがとうございました！